

2025年5月 (No.431)

主な内容とページ

AI は好調持続、他は不透明感強まる	1
地域別では米国向けが突出	2
DRAM 好調、NAND が急落	2
日本の半導体輸出は堅調、輸入は激減	3
赤字企業の増大	4
世界半導体企業 44 社、第 1 四半期業績結果	6
エヌビディア好調に安堵	10
AI は、開発より応用(SRL だより)	12

AI は好調持続、他は不透明感強まる

半導体の世界需要は、全体は高水準で推移しているが、自動車向けの市場混乱や関税騒動などから先行き不透明感が強まってきた。

1. 高水準だった第 1 四半期の勢いは第 2 四半期も続行、関税騒動に絡む駆け込み需要など影響しているとみられ、今年後半は調整を強いられる可能性がある。
2. 産業用や自動車向けなど低調、混乱気味で、米国オンセミ、マイクロチップ、わが国ロームなどが巨額赤字を計上。今後は赤字企業が増える可能性がある。
3. わが国は、自動車向け半導体需要がこれまで市場の伸びをけん引してきたが、今後は関税問題の影響が懸念され、より厳しい状況に陥る可能性がある。

AI は、開発より応用

タクシーで道順を知るのに運転手がスマホに尋ね、音声案内を得る。観光名所では、生成 AI による多ヶ国音声案内が使われているという。駐車場では、ナンバーを認識、自動で清算、車止めを不要にした方法が普及を始めている。

これらの例を聞けば、昔のマイコン登場前後を思い出す。当時はコンピュータが小さな IC チップで実現されたといわれても簡単に受け入れられなかった。しかし、電卓、レジスター、編み機、楽器等々、ついにはパソコンに至り大きく開花した。AI は果たしてどのように進歩するのだろうか。

大事なことは、AI 技術の開発はもとより使い道、すなわち応用開発だと思う。どちらかといえば応用開発の方が大事と思うのは、その市場規模や利益の比較でもわかる。ニワトリと卵の関係だが、AI の開発では日本は出遅れ気味といわれるが、応用開発は世界をリードの歴史があり、AI でも期待したい。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。但しオンライン法人契約を除きます。
この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。 2025 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2025 年 5 月 (毎月 1 回発行) 第 36 巻 5 号 (通巻 430 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042(318)7729

編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

May 2025, No.430

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2025

個人利用購読料金 1 年分 12 号 107,800 円 (税込み)